| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 経営学総論Ａ　　Business administration introduction A | | | | | | |
| 科目担当者 | 柚原 知明　　YUHARA Tomoaki | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 配当年次 | 1年 | 授業形態 | 講義 | 開講学期 | 前期 |
| 履修学部・学科［区分]<br>他学部他学科履修 | 経営学部・経営学科［専門教育科目　基礎専門科目］<br>法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］ | | | | | ディプロマポリシーとの関連 | (3)(4) |
| 授業の概要 | ・本授業の概要は，経営学の歴史的変遷を踏まえた基礎理論について解説する。基礎理論の解説がベースとなるが，近年の経営学を取り巻く DX(デジタル・トランスフォーメーション)等の最先端の技術革新を活用した先鋭的な領域やグローバル経営にも触れながら，基礎理論と具体的な事例の解説を行う。<br>　また，基礎的な諸理論の修得と併せて，楽しく経営学を学ぶために夢の「創業計画」の立案を目指した「創業計画」の策定(演習)，優秀な「創業計画」の発表・講評を行う。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | ①　経営学の歴史的な発展過程，及び現代社会において中心的役割を果たしている企業組織に焦点を当て,具体的な事例を踏まえた基礎的な諸理論について理解出来る。<br>②　「創業計画」の策定(演習)，優秀な「創業計画」の発表・講評を通じて経営学を学ぶ意義，及び経営者としての立場から経営学の基礎的な諸理論について理解出来る。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | |
|---|---|---|
| | 1 | ガイダンス |
| | 2 | 経営学を学ぶ意義 |
| | 3 | 経営学とその学問の位置づけ |
| | 4 | 企業とは? 創業の意義 |
| | 5 | 創業計画，中長期計画の立案 |
| | 6 | 株式会社の特徴と仕組み |
| | 7 | 先輩学生の「創業計画」紹介 |
| | 8 | 「創業計画」の策定(演習) |
| | 9 | 優秀な「創業計画」の発表・講評 |
| | 10 | 経営学の発生 |
| | 11 | テイラーと科学的管理法 |
| | 12 | フォードとフォードシステム |
| | 13 | ファヨールと管理過程論 |
| | 14 | メイヨーと人間関係論 |
| | 15 | まとめ |

| | |
|---|---|
| 授業外学修<br>(事前学修) | ・毎回の授業の範囲をテキスト等の熟読で予習し，理論の内容や専門用語の意味等を調べる(毎週 2 時間程度)。 |
| 授業外学修<br>(事後学修) | ・毎回の授業後の内容をテキストや配布したスライド等で復習し，理論の内容や専門用語の理解を深める(毎週 2 時間程度)。 |

| 成績評価方法・評価比率・到達目標との対応 | 成績評価方法 | 評価比率 | 到達目標との対応 |
|---|---|---|---|
| | 1.定期試験(レポート対応の場合を含む)<br>2.「創業計画」のレポート提出 | 50%<br>50% | ①<br>② |

| | |
|---|---|
| 成績評価基準 | 秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合<br>優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合<br>良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合<br>可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合<br>不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合 |
| 教科書 | ・井原久光〔2008〕『テキスト経営学[第 3 版]』ミネルヴァ書房。 |
| 参考文献 | ・加護野忠男・吉村典久編〔2006〕『1 からの経営学』中央経済社。 |
| その他 | ※この科目は、民間企業での勤務を経験を有する教員が実務経験を踏まえて経営学の歴史的変遷を踏まえた基礎理論について授業を行います。 |